コリント後書序言

本書をしたためた機会および目的　使徒パウロは、すでに先の書簡をコリントに送ってのち弟子チトを遣わして、その書簡をもってした譴責の結果をうかがわせ、自らはトロアデに至ったが、かねてここでチトと出会いコリント教会の現状を聞くはずであったにもかかわらず、チトがここに来ないのでパウロは気づかいのあまり、あるいは先の書簡がかえってコリント人の心をそこなったことはないか、争乱を増加させたことはないかを恐れ、トロアデを立ってマケドニアに行った。これらのことは本書の第二章十三節等によって知られる。チトはここでパウロに面会し、コリントの消息を伝えるとともに、自分が受けた歓迎、先の書簡によって多数のコリント人がいだいた改心、彼らのパウロに対する愛慕、近親相婚者もパウロの処置によって悔い改めたことなどの喜ばしい知らせ、またユデア教主義の人々がパウロの奮励を憤って、みだりにその行動をそしり、その軽卒と傲慢とを訴えること、ならびにエルザレムの信徒に対する醵金の準備をまだ終えていないことなどの遺憾に堪えない話をしたので、パウロは更にこの書簡をしたためるに至ったのである。本書はこのような機会によってしたためたため、喜悲の調子はおのずから文字の上に現われ、パウロの心が紙面に躍然としている。

本書の目的は第十三章十節に見られる。すなわち自分がほどなくコリントに行こうとしていたので、それに先立ってコリント人を感化させ、もとの懇親を温めて少しも心に曇りのないようにさ

せ、それによって彼らの救霊のために障害なく再び働くことができることにある。であるから、先の書簡の言葉をやや和らげて、もっぱら父としての愛を表わした。とは言え、教敵であるユデア教主義の人々は、みだりにパウロの名誉および使徒としての権利を失わせようと努めるため、パウロは彼らの仮面をはぎ自分の行動を弁護して、一人自分のためのみならず、キリスト教そのものに害をのがれさせるために自分の身の上のことを語った。

本書の題目および区分　以上述べたように、コリント後書はもっぱらパウロ自身の弁護に係わるものであって、他の事がらを述べていても、それはつまり枝葉に属するため、ロマ書、ガラチア書、エフェゾ書にあるような教理的な論を載せず、またコリント前書におけるような倫理に関する実用的教訓をも述べず、ただパウロの心がもっぱら行文の間に現われ、その外面的生活および霊的生活について最も興味ある事がらが多い。パウロは本書をしたためた時、すでに喜ばしい便りを受けていたが、なおユデア教主義の人々と、その卑劣なふるまいとについて悲観したもののように悲しい調子は全編をおおっている。これを他の書簡に比べると、テサロニケ前後書では、もっぱら希望を表わし、フィリッピ書では喜びを表わし、ロマ書では信仰を勧め、エフェゾ書では天のことを述べているのに対し、悲哀はコリント後書の特色となっているようである。

本書は思想が畳積しているため区分を判然とさせることは困難であるが、主な部分は明らかである。すなわち先に書簡的冒頭を置き（一章一～十一節）、第一にはパウロが自己の気質および使徒としての行動を弁護すると同時に、こんこんとした勧め、およびコリント教会における先の書簡の影響を述べ（一章十二節～七章十六節）、第二には慈善の勧めをなし、エルザレムの信徒

のために豊かな施しを促し、寛仁な心の功徳を述べ（八章一節～九章十五節）、第三には初めのように主として自己の身にかかわることを述べるが、特に不法な敵に対して使徒的権利を保持することに努め（十章一節～十二章十八節）、なお簡単な忠告と例の挨拶とをもって本書を結んでいる（十二章十九節～十三章十三節）。

本書をしたためた所および年代　前書はエフェゾでしたためたものであるが、後書はエフェゾを去ってしばらくトロアデに留まりマケドニア国に行った時にしたためたのである。ただし古代の写本に記されてあるように、あるいはフィリッピであったであろうか。

年代は、前書は紀元五七年の春であったが、後書はおそらく数カ月のちで夏のころであったろう。

使徒聖パウロ、コリント人に送りしのちの書簡

緒言

第一章 挨拶

1 神のおぼしめしによりてイエズス・キリストの使徒たるパウロおよび兄弟チモ
2 テオ[1]、コリントにある神の教会ならびにアカヤ全地方の聖徒一同に〔書簡を送る〕。2 願わくは、
わが父にてましますおよび主イエズス・キリストより恩寵*と平安とを汝らに賜わらんことを。

困難中の慰めを神に感謝す

3 祝すべきかな、わが主イエズス・キリストの神およびわが父、慈悲
4 の父、もろもろの慰めの神。すなわち、4 わがいっさいの患難において、われらを慰め給えるは、
われらをして、おのが神より慰め[2]らるる慰め[2]をもって、また自らいっさいの難に迫れる人々を慰
5 むることを得しめ給わんとてなり。5 けだしキリストのための苦しみ、われらにあふるるがごと
6 く、われらの慰めもまたキリストをもってあふるるなり。6 そもそもわれらが苦難に会えるも、
汝らの慰めと救霊(たすかり)とのため、慰めらるるも汝らの慰めのためにして[3]、汝らにも、われらが忍べる
7 ごとき苦しみを忍ぶことを得しむるなり。7 かくて汝らが苦しみをともにするがごとく、また慰
めをもともにせんことを知れば、われらが汝らに対する希望は固し。

その一例をあぐ

8 けだし、兄弟たちよ、われらが〔小〕アジアにおいて会いし困難につきて汝
らの知らざるを好まず、すなわち責められることと過度にして力及ばず、生くる望みをすら失う[4]に

9 至りしかば、9心のうちには死すとの返答を持ちたりき。これ、おのれを頼まずして、死者を復
10 活せしめ給う神を頼まんためなり、10すなわち先にかかる死[5]よりわれらを救い給いて、今も救い
11 給えば、なお救い給うべきことを信頼[6]するなり。11これまた汝らがわれらのために祈りて助くる
による、けだし多くの人の願いによりてわれらに賜わる恵みを、多くの人をもってわれらのため
に感謝せられんとてなり。

第一編　パウロ、使徒としての動作および気質を弁護す

第一項　パウロの真実をとがめ得る者はあらじ

12 パウロの真実　12われらが誇りとするところは、すなわち世の中、ことに汝らに対して処する
に素直なる心と神の賜える真実とをもってし、また肉的知恵によらず神の恩寵*によりてせるを、
13 わが良心の証することとこれなり。13けだし、われらの書き送るは汝らが読むところ、知るところ
14 にほかならず、14汝らすでに、ほぼわれらを知りたれば、また主イエズス・キリストの日におい
て、われらが汝らの名誉なるがごとく、汝らもわれらの名誉なることを、終わりまで知らんこと
を希望す。
15 旅程を変更せしも軽率にあらず　15かかる希望のもとに再び恩寵を得させんとて、われ先に汝
16 らに至り、16汝らを経てマケドニアに行き、マケドニアより更にまた汝らに至り、汝らよりユデ

17 アへ送られんと志ししが、17かく志したればとて、われ、あに軽々しくせしものならんや、また、
わが定むることをば肉によりて定め、しかりと言い、また、しかりずと言うがご
ときことあらんや。
18 パウロが表裏なきこと　18神は真実にましまして、わが汝らのうちに語りしところには、しか
19 り、しからず、と言うことなきを証し給う。19けだし、われらをもって、すなわち、われとシル
ヴァノとチモテオとをもって、汝らのうちに述べられ給いし神の御子イエズス・キリストにおい
20 ては、しかり、しからず、と言うことなく、ただ、しかり、と言うことあるのみ。20すなわち神
の約束は彼においてことごとく、しかりとなりたれば、われらは彼をもって、神に向かいてその
21 光栄のために、アメン[7]と唱うるなり。21汝らとともに、われらをキリストにおいて堅固ならしめ、
22 かつわれらに注油し*給いしものは神にてましまします。22しかしてなお、われを証印*し給い、保証と
して霊をわれらの心に賜いしなり。
23 旅程変更の理由　23われ魂をかけて神を呼びて証者とし奉る、すなわち、わが更に汝らに至ら
ざりしは汝らを宥怒するゆえなり。われらは汝らの信仰を圧せんとする者にあらずして、汝らの
喜びの協力者なり、そは汝ら信仰によりて立てばなり。

①使徒行録18・5、コリント前書4・17、16・10 ②ラテン訳では勧め。③ここで、ラテン訳で本節の初めの言葉が繰り返されるのは贅言である。④生きることにうむ。⑤ラテン訳では、かかる危険。⑥ラテン訳では希望。⑦しかり。そのようにあれの意。

3 2-1 **第二章**　1さて、われ心のうちに再び悲しみをもって汝らに至らじと定めたり、2けだし、われ
もし汝らを悲しましめば、わが悲しましむるその者ならで、たれかわれを喜ばしめんや。3わが

先に汝らに書き送りしも、至らん時、われを喜ばすべきはずの人々によりて、かえって悲しみに
悲しみを重ぬることなからんためにして、わが喜びは汝ら一同の喜びなりと、汝ら一同につきて
4 信ずるゆえなり。4 けだし、われ大いなる患難と心痛とにより、多くの涙をもって汝らに書き送
れり、これ汝らを悲しましめんとにはあらず、汝らに対するわがいつくしみの殊に深きを知らし
5 めんためなりき。5 もし悲しましめたる人あらば、そは、われ〔のみ〕を悲しましめたるにあら
ずして、幾ばくか汝ら一同を悲しましめたるなり、われは激しく責めじとて、かく言う。6 さる
7-6 人は多くの人より受けたる譴責にて事足れり。7 汝らはむしろこれを宥恕し、かつ慰めよ、おそ
8 らくは、その人堪えがたき悲しみに沈むべければ、8 われは汝らが彼に対して、いよいよ愛を加
9 えんことをこいねがう。9 先に書き送りしもこれがためにして、汝らが万事に従えるやいなやを
10 試みに知らんとてなりき。10 そもそも汝ら何ごとをか人に許したらば、われも、しかせん、わが
11 許したることあるも汝らに対してキリストのみ前に[1]許したるなり。11 こは、われらサタン*の計り
ごとを知らざるにあらざれば、これに籠絡せられざらんためなり。
12 パウロ、旅行の都合　12 さて、われキリストの福音のため、トロアデ[2]〔町〕に至りしに、主わ
13 れに門を開き給いたれど、13 われはわが兄弟チトに会わざるによりて心安からず、別れを彼らに
告げてマケドニアへ出発せり。
14 勝利を感謝す　14 われらをして、いつもキリスト・イエズスによりて勝を得させ、かつわれら
15 をもって彼を知ることの香りをいずこにも表わし給える神に感謝し奉る。15 けだし救わるる人に
16 も滅ぶる人にも、われらは神の御ため、キリストのこうばしき香りなり、16 ある人には死の香り

にして死に至らしむれど、ある人には生の香りにして生に至らしむ。しかも、たれかこれらの任に堪えたる者ぞ。17 けだし、われらは多くの人のごとくに神の御言葉を偽造せず、真実のままに神より出ずるごとく神のみ前にキリストにおいて語る。

① ラテン訳ではキリストの代理として。② 使徒行録16・8、11

第二項　新約における使徒職

第三章　パウロの添書

1 われらはまた、おのれを立てんとするか、はた、ある人々のごとく汝らに対して、もしくは汝らより添書を要する者なるか、2 汝らこそ、われらが心に書きしるされたる、われらの書簡にして、万民に知られ、かつ読まるるなれ。3 汝らは明らかにわれらにより て認められたるキリストの書簡にして、しかも墨をもってせず、生ける神の霊をもってし、また石碑の上ならで心の肉碑の上に書きたるものなり。4 われらキリストによりて、かくのごとく神のみ前に確信す、5 これ何ごとかを、おのれより思い得るにはあらず、われらの得るは神によれり。6 すなわち神は、われらを新約の相当なる役者となしめ給えり、そは儀文の役者にあらず霊の役者なり、けだし儀文は殺し霊は生かし給う。

使徒職は旧約の聖役にまさる

7 イスラエル*の子ら、モイゼ*の顔の終わりある光栄[1]のために、その顔を見つめ得ざりしほどに、死の役すら文字にて石に刻みつけられ、光栄のうちにありたれば、8 霊の役は、あにひとしお光栄あらざらんや。9 けだし罪に定むる役は光栄なれば、いわん

10 や義に定むる役は、なお豊かに光栄あるべきをや。10 かの時に輝きしは、すぐれたる光栄に対し
11 ては光栄ならず、11 けだし終わるべきものすら光栄をもってなりたれば、いわんや永存すべきも
のは、まさりて光栄あるべきをや。

13-12 **使徒たちの希望**　12 さればわれらは、かかる希望をいだける上に、はばからずもの言いて、13 モ
イゼのごとくにはせざるなり。彼は終わるべきその役の終わりをイスラエルの子らに見せざらん
14 ため、おのが顔におおいを置きたり。14 かくて彼らの精神にぶりて、今日に至るまで旧約を読
むに、そのおおいは依然として取り除かれず。けだし旧約はキリストにおいて終わるものなれど
16-15 も、15 今日に至るまでモイゼの書を読む時に、おおいは彼らの心の上に置かれたり。16 されど主
17 に立ち帰らん時、そのおおいは取り除かるべし。17 さて主はかの霊なり、主の霊ある所には自由
18 あり、18 われらはみな素顔にて主の光栄を鏡にうつすがごとく見奉りて、光栄より光栄に進み、
主と同じ姿に化す、これ主の霊によりてなるがごとし。

① 出エジプト記34・29

1 **第四章**　**パウロの教務を行なう方法**　1 このゆえにわれらは御慈悲をこうむりたるによりて聖役
2 を有する者なれば、弱ることなく　2 恥じ隠すところを捨て狡猾にふるまうことをせず、また神
の御言葉を偽造せずして真理を表わし神のみ前にすべての人の良心に訴えておのれを立つるなり。
3 **福音はなお、ある人々に隠れたるなり**　3 もし、われらの福音にして、なおおおいをもってつ
4 つまれたりとせば、そは滅ぶる人々に対してつつまれたるなり。4 すなわち彼らにおいて、世間
の神[1]、不信者の心をくらまし、神の姿にましませるキリストの光栄の福音の光を彼らの上に輝か

5 しめじとせるなり。5 けだしわれらはおのがことを述べず、わが主イエズス・キリストのことを
6 述べて、イエズス・キリストのためにおのれを汝らのしもべとなす。6 けだし命じて光を闇より
輝かしめ給いし神は、キリスト・イエズスのみ顔にある神の光栄の知識を輝かしめんために、自
らわれらの心を照らし給えり。

第三項　使徒たる者の苦痛

7 使徒は生来弱きも、主によりて強し　7 しかれども、われらはこの宝を土器のうちに持てるな
8 り、これ力の偉大なるところは、われらによらずして神によるべきゆえなり。8 われら万事に患
9 難を受くれども苦悩せず、窮迫きわまれども失望せず、9 迫害を受くれども捨てられず、倒さる
10 れども滅びず、10 いつもイエズスの死をわが身に帯ぶ、これイエズスの生命がまたわれらの身に
11 おいて現われんためなり。11 すなわち、われらは生ける者なれども常にイエズスのため死に渡さ
12 る、これイエズスの生命が、また死すべきわが肉身において現われんためなり。12 されば死はわ
れらのうちに働き、生命は汝らのうちに働くなり。

13 将来の光栄の希望をもって励まさる　13 しかるに、信仰の同じ霊を有すれば、書きしるして、
14 「われ信じたるがゆえに語りしなり[2]」とあるがごとく、われらもまた信ずるがゆえに語る、14 イ
エズスを復活せしめ給いしものが、われらをもイエズスとともに復活せしめ、汝らとともに立た
15 しめ給うべしと知ればなり。15 けだし万事は汝らのためにして、これ恩寵*豊かに神の光栄として、

16 いよいよ多くの人の感謝を豊かならしめんためなり。16ゆえにわれらは沮喪せず、われらの外面
17 の人は腐敗すれども、内面[3]の人はかえって日々に新たなり。17そは、われらの短く軽き現在の患
18 難が、われらに永遠重大にして無比なる光栄を準備すればなり。18われらの顧みるは見ゆるもの
にあらずして見えざるものなり、そは見ゆるものはこの世にかぎれども、見えざるものは永遠な
ればなり。

①悪魔の意。ヨハネ12・31、14・30、エフェソ書2・2、6・12　②詩編115・1　③精神の意。

1 **第五章**　**今の嘆きは将来の光栄の保証なり**　1けだしわれらは、幕屋なるわが地上の住み家破る
れば、人の手にならずして神より賜われる住み家、永遠の家がわれらのために天にあることを知
2 る。2すなわちわれらは、この住み家にありて嘆きつつ、このままにして天よりの住み家を上に
3 着せられんことをこいねがう。3これすでに着たるものにして、裸にて見出だされずば誠にしか
4 あるべし。4けだしわれらが、この幕屋にありて圧迫をこうむりて嘆くは、これ、はがるるを好
まず、かえってこの上に着せられ、死すべき部分をただちに生命に飲み入れられんことを欲すれ
5 ばなり。5これがために、われらを造り給えるものはすなわち神にましまし、これが保証として
〔聖〕霊をわれらに賜いたるなり。

6 **その希望の効果**　6さればわれらは、いつも憶することなく、この肉体にある間は、主に離れ
8-7 て流浪する者なることを知りて、7現に姿を見ず信仰をもって歩む者なれば、8あえて憶すること
9 となく、むしろ肉体を離れて主に侍べらんことを欲す。[1] 9されば肉体にあるも、これを離るるも
10 み心にかなわんことを努む、10そはわれら、みなキリストの法廷において現われ、あるいは善、

あるいは悪、おのおの肉体にありてなししところに報いらるべければなり。

第四項　使徒たる者の生活

11 **キリストのために神と人との和睦に努む**　11 かくのごとく、われらは主の恐るべきことを知りて人々を勧む。われらは明らかに神に知られたれば、汝らの良心にも明らかに知られたるべきことを信ず。12 われらはまた汝らの前におのれを立つる者にあらず、ただわれらをもって誇りとなす機会を汝らに与えんとす、これ心にならで面に誇れる人々に答うることを得させんためなり。

13 すなわちわれらが浮かるるも神のため、おのがことを謙遜に語るもまた汝らのためなり。

14 **キリストの愛に励まさる**　14 けだしキリストのいつくしみわれらに迫れり、われら思えらく、すべての人のために一人死し給いしなれば、これすべての人、死したるなり。15 またキリストが（すべての人のために）死し給いしは、生ける人をして、もはやおのがために生きず、むしろおのれらのために死し、かつ復活し給いし者のために生きしめんとてなり。16 ゆえに今よりのちわれらは人を肉身によりて知らず、かつてはキリストを肉身によりて知りたりとも、今はもはや、かくのごとくにして知るにあらず。17 人もしキリストにあれば新たに造られたる者となりて、古きところはすでに過ぎ去り、何ごとも新たになりたるなり。18 これらのことはみな神より出ず、すなわち神はキリストをもって、われらをおのれと和睦せしめ、かつ和睦の務めをわれらに授け給えり。19 けだし神はキリストのうちにましまして、世をおのれと和睦せしめ、また人々にその

罪を負わせず、われらにゆだぬるに和睦の言葉をもってし給えり。

20 **キリストの使節** 20されればわれらはキリストのために使節たり、あたかも神がわれらをもって
21 汝らに勧め給うに等し。キリストに代わりてこいねがう、神に和睦せよ。21罪を知り給わざる者
を、われらのために罪と見なし給いしは、われらがキリストにおいて神の義*とせられんためなり。
① ラテン訳では善意を有す。

1 **第六章** **重大なる忠告** 1われらは〔キリストの〕助手として、汝らが神の恩寵をいたずらに受
2 けざらんことを勧む、2けだしのたまわく、「われよき時に汝の願いを聞き、救いの日に汝を助
けたり」と。今こそはよき時なれ、今こそは救いの日なれ。

3 **いかにして教務をつくせるか** 3われら聖役をそしられざらんために、たれの心をもそこなわ
4 ず、4かえって万事においておのれを神の役者として表わす。すなわち大いなる堪忍をもって、
5 患難にも、困窮にも、苦悩にも、5負傷するも、監獄にあるも、騒乱にも、労働にも、徹夜にも、
7-6 断食にも。6貞潔と学識と、耐忍と温良と、聖霊〔の効果〕と偽りなき愛と、7真理の言葉と神
8 の力と、左右に持てる義の武器とをもって、8また尊栄と恥辱、悪評と好評とをもって、人をま
9 どわす者のごとくにしてしかも真実に、知られざるがごとくにしてしかも人に知られ、9死する
10 に似てしかも生くることかくのごとく、こらさるるに似てしかも殺されず、10憂うるがごとくな
るも常に喜び、乏しきがごとくなるも多くの人を富ましめ、有するところなきがごとくにしてい
っさいを有し、〔もって神の役者としておのれを表わすなり〕。

11 **コリント人に対する博愛を示す** 11ああコリント人よ、われらの口は汝らに開き、われらの心

13-12 は広くなれり、12 汝らがわれらのうちに狭めらるるにはあらず、汝らの腹わたこそ狭きなれ。13
われわが子に言うがごとくに語らん、われに等しく報いんために汝らも開かれよ。

不信者との縁組を戒しむ

14 汝ら不信者とくびきを同じゅうすることなかれ、けだし義*と不義
と何のあずかるところかあらん、光と闇と何のくみするところかあらん、15 キリストとベリアル[3]
と何の約するところかあらん、信者と不信者と何のかかわるところかあらん、16 神殿と偶像と何
の一致するところかあらん、神のたまえるごとく、汝らは生ける神の〔神〕殿なり、いわく、
「われ彼らのうちに住み、彼らの間に歩まんとす、しかしてわれ彼らの神となり、彼らわが民と
なるべし」[4]、17 また、「主のたまわく、されば汝ら彼らのうちより出でて、これを離れよ、不潔な
るものに触るることなかれ、18 かくてわれ汝らを受けて汝らの父となり、汝らわが子女[しじょ]とならん[6]、
と全能の神のたまえり」と。

① ラテン訳では助力として。② イザヤ49・8 ③ 悪魔の意。申命記13・13、ヨブ記34・18 ④ レビ記26・12、エゼキエル37・27 ⑤ イザヤ52・11、エレミア32・38、31・9 ⑥ エレミア32・37

第七章

結論 1 されば わが至愛なる者よ、われらこの約束を得ておのれを霊肉のすべての汚れ
より清め、神を恐れて、もって聖となることを全うすべし。

第五項 先の書簡に関して説明を与え、

コリント人との親睦を全うせんとす

2 われらを受け入れよ、われらはたれをも害せず、たれを

2 コリント教会に対するパウロの志

3 もそこなわず、たれをもかすめしことなし。3わがかくのごとく言うは汝らをとがめんとにはあ
らず、そは生死をともにすべく汝らわれらの心にありとは、わがすでに言いたるところなればな
4 り。4われ汝らを信用すること大いにして、汝らをもって誇りとすること大いなり。われらがい
っさいの患難のうちにおいて、われは慰めに満ち喜びに堪えず。

患難および慰め

5 5けだしマケドニアに至りし時、われらの肉身はいささかも安きことなく、
6 いっさいの患難に会い、外には争い、内には恐れありき。6されど、へりくだる人々を慰め給う
7 神はチトの来着によりて、われらを慰め給えり。7ただその来着によりてのみならず、なお彼が
汝らのうちに慰められし慰めをもってせり。すなわち汝らのわれを慕うこと、その嘆き、その熱
心をわれらに告げしかば、わが喜びは更に大いなりき。

先の書簡に関する説明

8 8けだしわれ書簡をもって汝らを悲しましめたれども、これを後悔せ
9 ず、たといその書簡がしばしにても汝らを悲しましめしを見て後悔したることありとも、9今は
喜べり。これ汝らの悲しみしゆえにあらず、悲しみて改心[1]するに至りたるゆえなり。汝らの悲し
みしは神に従いしものなれば、われらより何らの損害をも受けざるなり。

良き悲しみと悪しき悲しみ

10 10けだし神に従いての悲しみは、悔なき救霊に至るべき改心[2]を生
11 じ、世間の悲しみは死を生ず。11見よ、汝らが神に従いて悲しみしは、いかばかりの奮発、しか
も弁駁、しかも憤激、しかも恐怖、しかも愛慕、しかも熱心、しかも罪を責むることを汝らのう
12 ちに生じたるかを。汝らは万事の上に、この件につきて汚れに染まざることを表わせり。12され
ばわが汝らに書き送りしは、害をなしし人のためにあらず、害を受けし人のためにもあらず、わ

れらが汝らに対して神のみ前に持てる奮発を表わさんためなり。

チトの喜びにおける慰め　13 かくてわれらは慰めを得、慰めを得たる上になおチトの喜びによりて、ひとしお喜べり。そは彼の精神、汝ら一同によりて安んぜられたればなり。14 われかつて彼の前に汝らをもって誇りとせしも恥とするところなく、われらが汝らに語りしところの、みな誠なりしごとく、チトの前に誇りしこともまた誠となれり。15 彼は汝ら一同の従順と恐れおののきつつおのれを歓迎したるさまとを思い出だして、その腹わたの汝らに向かえること更に深し、16 われは万事につけて汝らを信用するを喜ぶ。

① ラテン訳では悔い改め。② ラテン訳では悔い改め。

第二編　慈善を勧む

第一項　醵金の方法

第八章　1 マケドニア諸教会の例　1 兄弟たちよ、われらマケドニア〔国〕の諸教会に賜わりたる神の恩寵*を汝らに告ぐ、2 すなわち彼らはおびただしき患難のためしに会いたれども、その喜びあふれ、そのはなはだしき貧窮は豊かにその惜しみなき志の富を表わせり。3 彼らは力に応じて、いなわれ彼らのために保証す、力以上に快く施せり。4 すなわち、しきりに聖徒たちに対する醵金にあずかる恵みを求めて、5 われらの希望以外にもまた、自らまずおのれを主に任せ、次に神の

おぼしめしによりて、われらにも任せたり。
6 **コリント人もまたなすべきこと** 6されば われらチトに望みて、すでにこの慈善事業を始めたれば、汝らのうちにもまたこれをなしとげんことを願えり。7ゆえに汝ら、信仰に、言語に、学識に、すべての奮発に、いっさいにおいて富めるがごとく、この慈善にも富む者となれかし。8われはこれを命ずるがごとくには言わず、他人の奮発をもって汝らの愛の真実を試みんとす。9けだし汝ら、わが主イエズス・キリストの恩寵を知れり、すなわち富める者にてましましながら、おのが貧しきをもって汝らを富ましめんとて、汝らのために貧しき者となり給いしなり。10これにつきてわれは勧告す、この慈善は汝らに益あり、けだし汝ら先にこれをなし始めしのみならず、一年前より志したることなれば、11今は実際にこれをしとげよ、これ志の早かりしごとく、持ち物に応じてなしとげることもまた早からんためなり。12そは、たとい志すこと早くとも嘉納せらるるは、持たざるものによらずして持てるものによればなり。13これ他人にゆるやかにして汝らを苦しめんとするにあらず、平均のためなり。14現に汝らの余るところは彼らの欠乏を補わざるべからず、しからば彼らの余るところもまた汝らの欠乏を補いて平均するに至るべし。書きしるして、15「多く得たりし人は余ることなく、少なく得たりし人は足らざることなかりき」[1]とあるがごとし。
16 **醵金を集むる三人のこと** 16神に感謝す、チトの心にも汝らに対して同じ奮発を賜いたるによりて、17彼は勧めをいれしのみならず、奮発の心なお深くして、進みて汝らのもとへ出立せり。18われらまた彼とともに一人の兄弟[2]を遣わしたるが、この人は福音につきて諸教会にあまねく誉

19 ある、19のみならず、主の光栄のため、またわれらが志を表わさんために行なえる慈善につきて
20 諸教会よりわれらの旅の伴とせられたるなり。すなわちわれらは注意して、20多額の醵金を取り
21 あつかうに、人にとがめられざらんとす。21そは神のみ前にのみならず、人の前にもよからんこ
22 とをおもんぱかればなり。22なお彼らとともに、また一人の兄弟を遣わしたるが、われらはその
奮発を多くのことにつきてしばしば認めたるのみならず、今は大いに汝らを信用するによりて、
その奮発心の更に著しきを認む。
23 **この三人につきて頼む**　23されば わが友たり汝らに対する協力者たるチトにおいても、諸教会
24 の使たりキリストの名誉たるわれらの兄弟たちにおいても、24汝らの愛と、われらが汝らにつき
て誇れることとの印を諸教会の面前に表わせ。

① マンナについて言われた言葉。出エジプト記16・18　② 名はわからない。③ 箴言3・4、マテオ5・16、ロマ書12・17　④ 名はわからない。

第二項　施しの性質および効果

第九章　**至る前に醵金の準備のならんことを願う**　1聖徒たちのためにせらるる醵金につきては、
2 われ汝らに書き送るに及ばず、2汝らの志のおもむけるを知ればなり。これによりてわれ、アカヤ[1]
〔州〕は昨年よりすでに準備せりとて、マケドニア人の前に汝らをもって誇りとなす、かくて汝
3 らの奮発はおびただしき人々を励ましたるなり。3しかるをわが兄弟たちを遣わしたるは、かつ

て汝らにつきて誇ることのこの点においてむなしからず、すでに言えるごとく準備のならんため
4 なり。4もしマケドニア人、われとともに至りて汝らの準備のいまだならざるを見ば、この点に
おいて汝らは言うに及ばず、おそらくはわれらも赤面するならん。

5 **豊かに施すべし**　5ゆえにわれ兄弟たちにこいて、先立ちて汝らに至り、すでに約束せられし
6 醵金を惜しむがごとくにせず恵むがごとくにして、あらかじめ備えおかしめんことを必要と思え
り。6ここにおいてわれは言う、惜しみて少なくまく人はまた少なく刈り、豊かにまく人はまた
7 豊かに刈らん。7おのおの心に決せしごとく、惜しまず、やむを得ざるに出でずして施すべし、
神は喜びて与うる人をよみし給えばなり。

8 **施しのこの世における効果**　8そもそも神はよくすべての恩寵*を汝らのうちにあふれしめ、汝
らをしていつも万事に十分ならざるところなく、すべての善業に豊かならしむることを得給う、
9 9書きしるして、「〔義人〕まき散らして貧人(ひんじん)に与えたり、その義*は世々に存す[2]」と、あるがごと
10 し。10さて、まく人に種を賜うものは、食すべきパンをも賜い、汝らの種をふやし、かつ汝らの
11 義の結ぶ実を増し給うべし。11かくて汝らが万事に富み、すべて快く施すをもって、人はわれら
につきて神に感謝し奉るに至らん。

12 **施しの霊的効果**　12けだし、この祭務[3]を行なうは聖徒たちの欠乏を補うのみならず、なおまた
13 主に対して多くの感謝を豊かならしむるなり。13すなわち聖徒たちはこの務めを証拠として、汝
らがキリストの福音に対して表わすところの服従、および彼らにもすべての人にも快く施せること
14 とにつきて神に光栄を帰し奉らん。14また神の汝らに賜いしすぐれたる恩寵につき、汝らを慕い

15 て汝らのために祈らん。15 言いつくしがたき御賜ものにつきて神に感謝し奉るべし。

①コリントを都とした地方。②詩編111・9　③慈善事業を言う。

第三編　パウロ、反対者に対して、おのが使徒たることを主張す

第一項　パウロの権力および労力

1 **第十章**　**パウロあえて反対者に向かわんとす**　1 面前におる時は汝らのうちにへりくだりて、おらざる時は汝らに対してあえて大胆なるわれパウロ、自らキリストの柔和と謙遜とをもって汝らにこいねがう。2 ある人々はわれらをあたかも肉に従いて歩むごとく思うがゆえに、わが汝らに願うところは、そこにおりて、かの思わるる大胆をもって、あえてこの人々に向かわざらんことこれなり。3 けだしわれら肉において歩むといえども、肉に従いて戦うにはあらず。

超世的武器をもって、これに打ち勝たんとす　4 すなわち、われらの戦の武器は肉的にあらずして城塞を破るほど神によりて強きなり。5 神の知識に逆らいて高ぶる計略と堡壘とをことごとくくずし、すべての理性をとりこにしてキリストに服従せしむ。6 また汝らの服従、完全になりたらん時、いっさいの背逆を罰せんとす。7 外面のことを見よ、人もし自らキリストのものなりと思わば、また省みて自らキリストのものなるがごとく、われらもまたしかりと考うべし。8 けだし、たといわれらの権力、すなわち主が汝らを破るためならで立つ

るために、われらに賜いたる権力につきて、いよいよ誇るとも、われは赤面せざるべし。
9 **至らん時、今書簡にしるせるがごとく厳重にすべし** 9 ただしわれ書簡をもって汝らをおどす
10 と思われざらんため、10 ‖すなわち彼らは言う、その書簡こそきびしく、かつ強けれ、目のあた
11 りには身は弱く、談話はつたなしと、‖11 かくのごとき人はわれらがおらざる時、書簡によりて
語るがごとく、おる時もまた実際にしかりと覚悟せざるべからず。
12 **おのが布教の成功を誇るも度外にあらず** 12 けだし、おのれを立つる人々には、われら身を並
べ、または比ぶることをあえてせず、彼らは、おのれをもっておのれを計り、おのれにおのれを
13 比べて悟らざる者なり。13 われらは度外に誇らず、神のわれらに計りて賜いたる分界の計りによ
14 りて誇る、その計りは汝らにまで及べること、すなわちこれなり。14 そは汝らまで届かざるもの
のごとく、計りを越えて身をのばしたるにあらずして、誠にキリストの福音をもって汝らに及び
15 たればなり。15 われらは他人の働きをもって度外に誇らず、ただ汝らが信仰のいや増すに従い
16 て、おのが分界に応じて汝らのうちにますます大いならんことを希望し、16 またすでに準備せら
れたる他人の分界に誇らずして、なお汝らを越えて他にも福音を述べんことを希望す。
18-17 **誇るべき方法** 17 誇る人はよろしく主によりて誇るべし、18 そは、よしとせらるる者は、おの
れを立つる人にあらずして、主の立て給うところの人なればなり。

第二項　パウロ、おのれを偽教師に比較す

第十一章

パウロ自らほむる必要を述べて弁解す

1 こいねがわくは汝ら、わが愚かなるところ
をいささか容赦せんことを、またわれをも容赦せよ。2 そはわれ神のごときねたみをもって汝ら
のために奮発し、汝らを一人の夫における潔白なる少女としてキリストに許婚したればなり。3
されどわが恐るるところは、蛇の狡猾によりてエワのまどわされしごとく汝らの心そこなわれて、
キリストに対する質朴を失わんことこれなり。4 けだし人来りて、われらの述べざりし他のキリ
ストを述べ、または汝らかつてこうむらざりし他の霊、もしくはかつて受け入れざりし他の福音
を受けんか、汝らよくこれをいれん。5 されどわれは何ごとにおいても、かの大使徒たちに劣らず
と思う、6 けだし談話にはつたなけれども学識はしからず、されど万事において汝らには顕然たり。
7 **報酬なくして布教せしは罪なりしか** 7 あるいはわれ、汝らを高めんために自らへりくだりて
報酬なくして神の福音を述べたるが犯罪なりや、8 われ他の教会をはぎ取りて給金を受け、もっ
て汝らのために努め、9 また汝らのうちにありて乏しかりしも、たれをもわずらわさず、マケド
ニアより来りし兄弟たちは、わが足らざるを補えり、かくのごとく自ら注意して万事において汝
らをわずらわさじとしたるが、以後もまた注意せんとす。
10 **報酬なくして布教せし理由** 10 われにあるキリストの真理によりて誓う、この名誉はアカヤ地
方において、われにつきてそこなわれざるべし、11 これ何ゆえぞ、わが汝らを愛せざるゆえなる
か、神は知り給えり。12 わが行なうところは、われなおこれを行なわんとす、これ機会を求むる
人々の機会を断ち、彼らをして自ら誇るところにつきて、われらと同じからしめんためなり。13
けだし、かかる人々は偽使徒にして狡猾なる労働者、身をキリストの使徒に装える者なり。14 こ

15 は、めずらしきことにあらず、サタン*すら自ら光の使におのれを装うものなれば、15その役者が
また義の役者のごとく装うは大事にあらず、彼らの終わりはその業にかなうべし。

一言の断り

16 われ再び言わん、われも少しく誇るべければ、たれもわれを愚なりとすることな
かれ、さらずば愚としてわれを受け入れよ。17この名誉の点につきて、わが語るところは、主に
従いて語るにあらず、愚なる者のごとくにして語るなり。18多くの人は肉身上に誇るゆえに、わ
れもまた誇らん。19けだし汝らは自ら知者なれば喜びて愚者を忍ぶなり。20すなわち人ありて汝
らを奴隷とするも、食いつくすも、かすむるも、高ぶるも、汝らの顔を打つも、汝らはこれを忍
ぶ。21恥ずかしながらわれは言う、われらはこの点につきて弱き者のごとくなりき。愚かにも言
わん、人のあえて憶せざるところは、われもあえて憶せず。

パウロの資格

22 彼らヘブレオ人なるか、われもまたしかり、彼らイスラエル人*なるか、われ
もまたしかり、23彼らアブラハム*の末なるか、われもまたしかり、23彼らキリストの役者なるか、
われ狂えるがごとくに言わん、われはなおしかり。わが働きはなおおびただしく、監獄に入りし
ことはなお多く、傷つけられしことは無量[4]にして、死に会えることはしばしばなりき。24ユデア
人より四十に一つ足らず打擲せられしこと五つたび、25笞刑を受けしこと三たび、石を投げ打た
れしこと一たび、破船に会いしこと三たびにして、一昼夜の間海中にありき。26しばしば旅行し
て、川の難、盗賊の難、邦人よりの難、異邦人*よりの難、都会における難、僻地における難、海
上の難、偽兄弟よりの難に会い、27労働し、かつ悩み、しばしば夜眠らず、飢えかわき、断食す
ることたびたびにして、こごえ、かつ裸なりき。28これら外部のことのほか、また日々、さし迫

29 れる諸教会の憂いあり、29弱れる者あるに、われも弱らざらんや、つまずく者あるに、われも心
31-30 焼けざらんや。30誇るべくんば、わが弱点につきて誇らん、31世々に祝せられ給うわが主イエズ
32 ス・キリストの神および父は、わが偽らざることを知り給う。32ダマスコにおいてアレタ王のも
33 となる州長、われを捕えんとてダマスコ人の都会を守りしかば、33われはかごをもって窓より石垣づたいにつりおろされ、さて、その手をのがれたりき。

①イザヤ54・5、62・5、エレミア3・1、エゼキエル16・8、ホゼア2・19　②ラテン訳では、おける。③ラテン訳では知恵の劣りたる。④ラテン訳では過度。

第十二章

1 **パウロが神より受けし特別の恵み**　1誇るべくんば無益のことながら、われは主の賜
2 いし幻と黙示とに及ばん。2われはキリストにある一人の人を知れり、彼は十四年前、＝肉体に
ありてか肉体のほかにありてか、そはわが知るところにあらず、神ぞしろしめす、＝第三天まで
3 上げられしなり。3われはまた知れり。この人は＝肉体にありてか肉体のほかにありてか、そは
4 わが知るところにあらず、神ぞしろしめす、4＝楽土に取り上げられて、得も言わず人の語るべ
5 からざる言葉を聞きしなり。5われは、かかる人のために誇らんとすれども、わがためにはわが
6 弱点のほか誇ることをせじ。6けだし誇らんとすとも愚なるべきにはあらず、誠を語らんとすれ
ばなり。されど人のわれに見るところ、あるいはわれより聞くところに過ぎて、われを重んずる
ことなからんために、われはやめん。
7 **高ぶらざるゆえん**　7さて、わがこうむりたる黙示の偉大なるにより、われをして高ぶらざら
8 しめんために、肉身に一つのとげすなわちわれを打つべきサタン*の使を与えられたり。8ここに

9 おいて、そのわが身より去らんことを三たびまで主に求め奉りしに、9のたまえらく、汝にはわ
が恩寵*にて足れり、そは力は弱きうちにおいて全うせらるればなり、と。されば
10 キリストの能力のわれに宿らんために、むしろ喜びてわが弱点によりて誇らん。10ゆえにわれはキリストのため、
わが弱点に、恥辱に、欠乏に、迫害に、患難に安んず、弱き時においてこそ強ければなり。
11 **愚なるがごとくなるも、おのがあやまちにあらず** 11われは愚かになれり、汝らにしいられて
なり。けだし汝らより引き立てらるるはずなりき、そはわれ取るに足らざる者なりといえども、
12 何ごとも、かの無上の大使徒に劣らざればなり。12わが使徒たるの証拠は、すべての忍耐と印と
13 奇跡と不思議とによりて汝らの上に成り立てり。13そもそも汝らが他の諸教会より少なく得たり
しは何ぞ、あるいは、わが汝らをわずらわさざりしことなるか、こう、この不義をわれに許せ。[1]
14 **コリント人に対する寛大の志** 14今や三たび汝らに至らんとして支度せしが、なお汝らをわず
らわさじ、これわが求むるところは汝らにして、汝らの持ち物にあらざればなり。すなわち子ど
もは親のために貯蓄すべきにあらず、親こそ子どものためにこれを行なうべきなれば、たとい汝
15 らを多く愛して、少なく愛せらるることありとも、15われは最も喜びて汝らの魂のためにつくし、
またおのれをもつくさん。
16 **パウロの弟子も無欲なりき** 16よし、われ汝らをわずらわさざりしも、狡猾にして汝らを籠絡
18-17 せりとせんか、17されどわが汝らに遣わしし人々のうち、たれをもって汝らを籠絡せしぞ。18チ
トに頼み、彼とともにまた一人の兄弟を遣わししが、チトは汝らを籠絡せしか、われらは同一の
精神をもって同一の足あとを歩みしにあらずや。

結末

19 今度の会合に関する忠告　19 汝らはかねて、われら汝らに対して弁解すると思えり、われらは神
のみ前にキリストにありて語るなり。わが至愛なる者よ、万事は汝らの徳を立てんがためなるぞ。
20 20 されどわれおそらくは、あるいは至りて汝らを見んに、わが思えるごとくならず、また汝らが
われを見んにも、思えるごとくならざらんか、あるいは汝らの間に争い、ねたみ、恨み、争論、
21 誹謗、つぶやき、高ぶり、擾乱あらんか、21 またあるいは、わが至らん時、わが神われを恥じし
め給いて、多くの人かつて罪を犯したるに、その行ないし不潔と私通と、はなはだしき罪とを悔
い改めざるを、わが嘆くことあらんか。

① 本書11・7〜12

1 **第十三章**　**コリントに至りてのち、なさんとすること**　1 今やわれ三たび汝らに至らんとす、二
2 三の証人の口によりて、すべてのこと決せらるべし。[1] 2 すでに告げしことながら、今われそこに
おらざれども、おると等しく、先に罪を犯しし人々および他のすべての人にも告ぐ、われ再び至
3 らば決して許さじ。3 汝らキリストのわれにおいて語り給う証拠を求めんとすれば、キリストは
4 汝らに向かいて弱くましまさず、汝らのうちに大いに能力あり。4 けだし弱きによりて十字架に
つけられ給いしかど、神の力によりて生き給えばなり。すなわちわれらも彼において弱しといえ
5 ども、神の力によりて彼とともに汝らのうちに生きんとす、5 汝ら信仰にあるやいなやを自ら試

み自ら証せよ、汝らのうちにキリストのましますことを自ら知らざるか、あるいは非認せられた
7-6 る者なるか、6 われはわれらの非認せられたる者にあらざるを汝らの知らんことを希望す。7 わ
れらが神に祈るは汝らの少しも悪をなさざらんことこれなり。これわれらの是認せられたること
の現われんためにあらずして、たといわれらは非認せらるとも、汝らが善事を行なわんためなり。
9-8 8 けだしわれらは真理のために力あり、これにそむきては何ごともあたわざればなり。9 われは
10 われらの弱く汝らの強きを喜ぶ、またわが祈るところは汝らの改善なり。10 不在にして、これら
のことを書き送るは、わが至らん時、滅ぼさんためならで、立てんために主より賜わりたる権力
をもって、あまりにきびしくせざらんとてなり。

11 **最後の勧告**　11 そのほか兄弟たちよ、汝ら喜び、かつ完全にして相慰め[2]、心を同じゅうして平
和を保て、しからば平和と愛との神は汝らとともにましまさん。

12 **伝言**　12 聖なる接吻をもって互いによろしく言え、聖徒らみな汝らによろしくと言えり。

13 **祝禱**　13 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵と、神のいつくしみと、聖霊の交わりと、
汝ら一同とともにあらんことを、アメン。

① 申命記19・15、マテオ18・16、ヨハネ8・17　② ラテン訳では相勧め。